

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	診 断	治療方法	予防方法	感染期間	登園基準	集団保育において留意すべき事項
伝染性紅斑 (リンゴ病)	ヒトパルボウイルス B19	10～20日	飛沫感染	軽いかぜ症状を示した後、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が出現する。発しんが治っても、直射日光にあたりたり、入浴すると発しんが再発することがある。稀に妊婦の罹患により流産や胎児水腫が起こることがある。 <合併症>関節炎、溶血性貧血、紫斑病	臨床的診断血清学的診断	なし	ワクチンはない	かぜ症状発現から顔に発しんが出現するまで	全身状態が良いこと 発しんが出現した頃にはすでに感染力は消失している。	・幼児、学童期に好発する。
ヘルペス口内炎	単純ヘルペスウイルス	3～7日	接触感染	歯肉口内炎歯肉が腫れ、出血しやすく、口内痛も強い。 治癒後は潜伏感染し、体調が悪い時にウイルスの再活性化が起こり、口角、口唇の皮膚粘膜移行部に水疱を形成する（口唇ヘルペス）。	臨床的診断	アシクロビルの内服	ワクチンはない	水疱を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること	・免疫不全の児、重症湿疹のある児との接触は避ける。 ・遊具は個人別にする。